

鳴門教育大学

学校教育研究紀要

No.33

| | | |
|---|-----|-------------------------------|
| 肢体不自由のある生徒への臨床動作法を基盤とした学習支援 —主体的・対話的・深い学びに向けて— | 1 | 田中 淳一, 藤澤 憲, 高橋 眞琴 |
| チーム学校の組織化から見るスクールソーシャルワーカーの役割 | 11 | 高橋 眞琴, 石黒 慶太 |
| 小中連携を視野に入れた理科のカリキュラム・マネジメント実践の検討 | 19 | 石村 雅雄, 藤森 弘子 |
| 国内外における大学生の恋愛に関する心理学的研究の動向 —学生相談における恋愛問題解決支援のあり方の探求— | 27 | 井ノ崎敦子, 葛西真記子 |
| 新教育委員会制度下での市町村教育行政の推進状況について —徳島県市町村における総合教育会議及び教育大綱等に関する質問 紙調査より— | 35 | 北島 孝昭, 阪根 健二 |
| 学校種を超えた教科・科目を総合する教材研究 | 43 | 金児 正史, 小島 敦, 池田 誠喜 |
| 高校生の道徳的判断の発達を目指した道徳授業 | 51 | 阿部 知行, 池田 誠喜 |
| 児童・教師・保護者の取り組みによる学校エンゲージメント向上の 試み | 59 | 田中由賀里, 阪根 健二, 大林 正史, 池田 誠喜 |
| 中学校保健分野における「素朴概念」を批判的に吟味する態度の育 成を目指して | 69 | 高好 芽衣, 森 康彦 |
| 児童の学習に関する問題と学校適応感の関連についてのレビュー | 79 | 山西 健斗, 小倉 正義 |
| 公認心理師としての学校予防教育から教育臨床へのかかわり方 | 85 | 山崎 勝之 |
| 主体性の育成に根ざした体育授業の実践的研究 —小学校中学年のリレー学習における場の工夫に着目して— | 95 | 原田 卓弥, 鈴木 貴之, 戸花 善紀, 湯口 雅史 |
| 定時制・通信制高校におけるソーシャルスキル能力を高める取り組み —コース別総合学習での試み— | 103 | 八原 るみ, 杉原 潤嗣 |
| 指導教諭の職務実態と研修ニーズに関する研究 —A県における指導教諭と校長に対する質問紙調査の分析を通して— | 111 | 大林 正史 |
| 同性愛者（LG）への態度と被異質視不安傾向・異質拒否傾向との関連 | 121 | 田中 美月, 伊藤 拓, 葛西真記子 |
| 教師の精神的健康の現状と課題について —自己心理学的視座からの考察— | 131 | 森下左知子, 葛西真記子 |
| 児童用の簡易版セルフ・エスティーム（SE）潜在連合テストの開発の構想 —自律的ならびに他律的 SE を同時に測定する, 紙筆版とタブレット PC 版の測定法開発に関する理論— | 141 | 横嶋 敬行, 賀屋 育子, 内田香奈子, 山崎 勝之 |
| 学校園等を核とした新しい家庭教育支援の展開と可能性 —とくしま親なびワークショップの取り組みを通して— | 149 | 木村 直子 |

1. 鳴門教育大学学校教育研究紀要（以下「紀要」という。）は、主として次の投稿論文を掲載する。
 - (1) 地域連携センター（以下「センター」という。）の客員研究員研究プロジェクト（以下「研究プロジェクト」という。）の研究成果である未発表の投稿論文
 - (2) センターの活動として行う研究等に関する未発表の投稿論文
 - (3) その他センターが特に認めた未発表の投稿論文
2. 紀要に執筆できる者は、次のとおりとする。
 - (1) 本学の専任教員及び附属学校園教員
 - (2) 本学の専任教員を論文の共著者とした研究プロジェクトの研究分担者
 - (3) その他センター所長が特に認めた者

ただし、(1)(2)(3)ともに、共著の場合は本学の専任教員及び附属学校園教員を共著者とし、第一著者は本学の専任教員、附属学校園教員、研究員、客員研究員、研究補佐員、大学院生（連合大学院生を含む。）のうちいずれかとする。
3. 投稿論文の区分は、次のとおりとする。
 - (1) 問題提起と研究成果・理論的考察を備えた、比較的まとまったものを原著論文とする。
 - (2) 研究の経過報告、調査資料の報告などをとりまとめたものを研究報告とする。
4. 第一著者として投稿できる論文数は、1執筆者につき2編までとする。
5. 投稿論文の掲載の可否及び掲載の順序などについては、センター所長及びセンター担当教員で構成する学校教育研究紀要編集委員会において決定する。
6. 投稿論文の著作権及び公開については、次のとおりとする。
 - (1) 紀要に掲載された論文の著作権は著作者に属する。ただし、鳴門教育大学に対して、継続的に複製権、公衆送信権を許諾することとする。

また、投稿論文が第三者の著作権その他の権利の侵害問題を生じさせた場合、一切の責務は投稿者が負うものとする。

 - (2) 論文は原則としてウェブページで公開するものとし、掲載が認められた時点で、著者の許諾があったものとして取り扱う。なお、特別な事情によりウェブページでの公開を許諾できない場合は、理由書を学校教育研究紀要編集委員会に提出し、非公開とすることに対して許諾を得るものとする。
7. 執筆要項は、原則として次のとおりとする。
 - (1) 原稿は、和文あるいは英文によるものとする。原則としてMS-Wordあるいは一太郎を用いる。印刷サイズはA4版の縦おきで、上下左右の余白は各々25mm、20mm、15mm、15mmとし、文と図、表、写真、文献等を含めて作成する。和文、英文ともに刷り上がりページ数は、原則として原著論文は10ページまで、研究報告は6ページまでとする。
 - (2) 和文原稿は、常用漢字、新かなづかいで横書きとする。冒頭には、タイトル、タイトル（英文）、著者名、所属と所在地、著者名（英文）、所属と所在地（英文）、抄録（200～400字）、キーワード（重要な順に3～5語）、アブストラクト（英文、200ワード以内）、キーワード（英文）を1段組で、それ以降の本文、引用文献等は2段組（25字×48行×2段組、段間は10mm程度）で記す。

本文の書体は明朝体（9pt）を標準とする。句読点は、原則として「（コンマ）」と「。（句点）」に統一する。1桁の数字は全角、2桁以上の数字は半角、アルファベットは半角を基本とする。

 - (3) 英文原稿は、冒頭に、タイトル、著者名、所属と所在地、アブストラクト（200ワード以内）、キーワード（重要な順に3～5語）を1段組で、それ以降の本文、引用文献は2段組（48行×2段組、段間は10mm程度）で記す。

本文の書体はTimes（9pt）を標準とする。

 - (4) 氏名をアルファベット表記する場合の姓名の順序は、和文及び英文原稿ともに、母国の標記の順序（例：日本語の場合はYAMADA Taro）とし、姓は大文字で表記する。
 - (5) 本文の見出しの番号の付け方は、和文原稿ではゴシック体（9pt）全角で、英文原稿ではArial（9pt）で、次のようにする。

大見出し ローマ数字で表す。中央揃えを標準とする。
 中見出し アラビア数字で表す。左揃えを標準とする。
 小見出し 片括弧付きアラビア数字で表す。左揃えを標準とする。

1. …
 1) …
 2) …
 3) …
 2. …

 - (6) 図表

図（写真を含む）や表は、鮮明で内容が判別できるものを用いる。図表は必要最低数にとどめ、1枚の図表の最大サイズは刷り上がりで見開き2ページを超えないものとする。必要な場合は1段組にしてもよい。

図題は図の下に、和文原稿では図1、図2…のように、英文原稿ではFig. 1, Fig. 2…のように記す。また、表題は表の上に、和文原稿では表1、表2…のように、英文原稿ではTable 1, Table 2…のように記す。図題、表題ともに、和文原稿はゴシック体（9pt）、英文原稿ではArial（9pt）で、中央揃えとする。

写真は白黒写真を原則とし、挿入位置及び仕上りサイズを原稿用紙上につける。なお、カラー写真の掲載を希望する場合には、その印刷実費は第1著者又は研究代表者の個人（研究費）負担とする。
 - (7) 参考文献及び引用文献
 - 1) 本文中での文献の引用は、英字、記号、数字を半角とし、以下のとおりとする。

(例) GAGNE (1970b) は……
 前田 (1969) は、……。……と述べている (GAGNE, 1970b)。
 ……と述べている (前田, 1969)。

 - 2) 文献は、投稿論文の最後一括して、著者名のアルファベット順に表記する。記述は英字、記号、数字を半角とし、以下の形式を標準とするが、他の形式を用いてもよい。
 - ① 論文の場合は、著者名、発表年、表題、雑誌名（書名）、巻（号）、ページ。
 (例) 鳴門太郎 (1900), 日本の学校, 日本教育, 16(1), pp.1-10.
 鳴門太郎:「日本の学校」,『日本教育』, Vol. 16, No.1, pp.1-10, 1990年.
 「日本の学校」, 鳴門太郎,『日本教育』, 第16巻第1号, 1-10頁, 1990年.
 - ② 単行本の場合は、監編著者名、出版年、書名、出版社、ページ。
 (例) 鳴門太郎編著 (1900), 日本の学校, 日本出版, pp.1-200.
 鳴門太郎編著:『日本の学校』, 日本出版, 1-200頁, 1990年.
 『日本の学校』鳴門太郎編著 (日本出版, 1990年, 全200頁)
 - ③ 外国文献の単行本の場合は、編著者名（出版年）、書名、出版社所在地、出版社、ページ。
 (例) NARUTO, Taro (1900), The Japanese School, Tokyo, Nippon Syuppan, pp.1-200. - (8) 注記は必要な場合には本文の最後、文献の前に一括して記述し、本文中では該当箇所の右肩上付で、注1)、注2)のようにして示す。
 - (9) 研究プロジェクトの研究成果である原著論文又は研究報告については、文献の後に付記として、当該研究プロジェクトの年度、研究題目を明示する。
8. 投稿は、文書ファイルを、教務企画部社会連携課地域連携係までメール（chiiki@naruto-u.ac.jp）にて提出する。
9. 校正は著者が責任を持って行い、誤植の訂正のみとし内容の加筆、修正、削除等は受け付けない。
 なお、著者校正は初校のみとする。
10. 別刷の費用は、個人（研究費）負担とする。

2018年度 学校教育研究紀要編集委員会委員

阪 根 健 二 地域連携センター所長
泰 山 裕
藤 原 伸 彦

2018年度 鳴門教育大学学校教育研究紀要 No.33

発行年月 2019年2月
編集 鳴門教育大学地域連携センター
発行 鳴門教育大学地域連携センター
〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748
電話 088-687-6101 FAX 088-687-6100
印刷 (協)徳島印刷センター
〒770-8056 徳島市問屋町165
電話 088-625-0135 FAX 088-622-0734

Bulletin
of
Center for Collaboration in Community
Naruto University of Education
No.33, Feb, 2019

Contents

Original Papers

- 1 TANAKA Junichi, FUJISAWA Ken and TAKAHASHI Makoto
Learning Support Based on Clinical Dousa-hou for Students with Physical Disabilities:
For “Subjective, Interactive and Deep Learning”
- 11 TAKAHASHI Makoto and ISHIGURO Keita
The Role of School Social Worker toward Organization of “Team School”
- 19 ISHIMURA Masao and FUJIMORI Hiroko
A research for examination of the curriculum management of the science for making the collaborative relationship
between elementary schools and junior high schools.
- 27 INOSAKI Atsuko and KASAI Makiko
The Review of psychological studies on romantic relationships of university students
— The pursuit of ways to help for clients’ resolution of romantic relationship problems in student counseling —
- 35 KITAJIMA Takaaki and SAKANE Kenji
Promotion of Educational Administration under New System of Municipal Board of Education
— Questionnaire Survey of General education meeting and Education general rules in Tokushima Prefecture —
- 43 KANEKO Masafumi, KOJIMA Atsushi and IKEDA Seiki
‘kyozaiikenkyu’ of integrated subjects from elementary school to upper secondary school
- 51 ABE Tomoyuki and IKEDA Seiki
An Attempts of Moral Lesson to Develop High School student’s Moral Judgment
- 59 TANAKA Yukari, SAKANE Kenji, OBAYASHI Masafumi and IKEDA Seiki
An Attempt to Improve School Engagement by Activities of Children, Teachers and Parents
- 69 TAKAYOSHI Mei and MORI Yasuhiko
Aiming to develop at attitude to critically examine “naive conceptions” in the field of junior high school health.
- 79 YAMANISHI Kento and OGURA Masayoshi
The Review on the Relationship between the Children’s Learning and School Adaptation
- 85 YAMASAKI Katsuyuki
Work as certified psychologists in clinical and prevention activities at schools
- 95 HARADA Takuya, SUZUKI Takayuki, TOHANA Yoshiki and YUGUCHI Masafumi
Practical Research on Physical Education Rooted in Self-motivated Education
— A focus on planning of relay exercises in elementary school middle grades curricula —
- 103 YAHARA Rumi and SUGIHARA Junji
A Program to raise social skills in a high school of evening class and correspondence class
— Experimental Learning of an Integrated Learning Course —
- 111 OBAYASHI Masafumi
A study on the actual condition and the training needs of supervising teacher
— Through analysis of questionnaire survey for supervising teachers and principals in prefecture A —
- 121 TANAKA Mizuki, ITO Taku and KASAI Makiko
The Effect of Anxieties about being thought different from others and Tendency toward Uniformity on the Attitude to
Homosexual
- 131 MORISHITA Sachiko and KASAI Makiko
Current Situation of and the Problems in Teachers’ Mental Health
: From the Perspective of Self Psychology Theory
- 141 YOKOSHIMA Takayuki, KAYA Ikuko, UCHIDA Kanako and YAMASAKI Katsuyuki
Considerations on the Development for Brief Self-Esteem Implicit Association Test for Children:
Theoretical Perspectives Toward Developing Implicit Association Test for Autonomous and Heteronomous Self-Esteem
- 149 KIMURA Naoko
Development and possibilities of new family educational support systems with a focus on schools
— The role of Tokushima parent workshops —